

も い 森 林 の 話

第 38 話
石狩森林管理署
村瀬 寿安

若手職員のコーナーです

遠い九州からここ北海道に赴任して、早いもので3年目となりました。現在は、石狩森林管理署赤井川森林事務所に勤めており、日々山と向き合っています。北海道の気候にも慣れ、大自然を満喫していますが、今回は、近年多発している野生鳥獣による森林被害に焦点を当て、森林事務所が行っている様々な調査についてご紹介します。

<野鼠生息数調査>

野鼠（ノネズミ）による食害により、幼齢木・壮齢木を問わず枯死に至ることがあります。特にエゾヤチネズミは数年おきに大発生し、大きな被害を引き起こすことがあるため、国有林では若い造林地等で生息数の調査を行っています。野鼠の生息数や現地の被害状況に応じて、殺鼠剤（さっそざい）を使用して植栽木等を守っています。令和5年度に笹が一斉開花して枯れてしまったことで、野鼠の生息数に影響があるのか注視しています。

<ヒグマ広域痕跡調査>

毎年のように情報メディアで取り沙汰されているヒグマについても調査を行っています。調査内容としては、自分が入林した森林の場所とそこにヒグマの痕跡が確認されたかの2点を記録し、確認された場合は具体的にど



こで何が確認されたかを記録します。ここ2年ほど山を見てきて、まだ一度もヒグマと遭遇したことはありませんが、どこの山にも痕跡があることから、十分な備えをして山に入っています。この調査と関連して、堅果類結実状況調査があります。ヒグマの餌となるドングリ、ヤマブドウ、コ

クワについて、結実状況を見えています。ヒグマの餌が豊作な年でも里山での被害が見られるため、十分な注意が必要です。

<エゾシカ簡易影響調査・痕跡調査>

時々市街地にも現れてちょっとした騒動を巻き起こしているエゾシカですが、シカによる被害は森林被害全体の約7割を占め、深刻な状況となっています。国有林では、個体数及び被害の把握のため、エゾシカ簡易影響調査・痕跡調査を行っています。現場に出ていると山の中を悠々と歩いたり、樹皮を剥いだ痕跡を確認したりします。その情報を記録し、報告しています。



また、国有林では市町村からの要望に応じて連携捕獲を実施しています。私が勤務している赤井川村でも、村との連携捕獲を行っており、エゾシカの積極的な捕獲に取り組んでいます。

この記事が掲載されている頃は、狩猟期間に当たり、多くのハンターの立ち入りがあると思います。入林の際は、銃猟が行われている区域には、近づかないようご注意事項です。

<最後に>

環境の変化により、野生鳥獣の動向も変わりつつあります。継続的な調査を行うことで、共存に向けた野生鳥獣の動向に目を向けたいと思います。写真については、赤井川村産業課農政係の杉山様にご提供いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。